

サステナビリティ レポート 2026

Sustainability
Report

誰もが笑顔で暮らせる社会。
あらゆる命が豊かに循環する地球。
未来のために、今、私たちにできること。

2023年12月に完成した
始良市にあるバイオディーゼル燃料の
精製施設です。



ご挨拶	03
SDGsの達成に向けて	04
2030年ビジョン(長期方針)	06
2030年ビジョン第1の柱 生活者の食と暮らしを守ること	08
2030年ビジョン第2の柱 よりよい組織(生協)をつくること	10
2030年ビジョン第3の柱 “ひらかれた生協”として、地域とつながること	12
2030年ビジョン第4の柱 「コープSDGs行動宣言」の活動を進めること	15
生協コープかごしまの概要	22

ごあいさつ

生協コープかごしま 理事長

上 城 秀 人



■2026年版サステナビリティレポートをお届けするにあたり、日頃より生協の事業と活動を支えてくださる組合員のみなさま、地域のみなさまに心より感謝申し上げます。

■今年は、中東地域の不安定化が世界のエネルギー供給に影響を及ぼし、原油価格の上昇や、原油を原料とする包材・資材の不足が国内の流通や製造にも波及しています。加えて、円安基調が続く中で、生活必需品を中心とした物価高騰が家計を圧迫し、地域の暮らしは依然として厳しい状況にあります。こうした国際情勢の緊張は、平和の尊さと、その実現に向けた取り組みの重要性をあらためて私たちに突きつけています。

■私たちは、事業の安定的な運営を図りながら、地域の誰もが安心して暮らせる社会を実現するため、環境・福祉・地域づくりの各分野で取り組みを進めてきました。特に今年は、物価高や孤立の深まり

といった社会課題に対し、行政や地域団体との連携を強め、支え合いの仕組みづくりを一層推進しています。また、脱炭素社会の実現に向けたエネルギー施策や食品ロス削減の取り組みに加え、平和の大切さを次世代へつなぐ学習や交流の機会づくりにも力を注いでいます。

■サステナビリティとは、環境への配慮にとどまらず、「地域の未来をどうつくるか」という問いに向き合う営みです。私たちの挑戦は道半ばではありますが、一つひとつの実践が確かな変化を生み出しつつあります。

■本レポートが、私たちの取り組みを共有するとともに、地域のみなさまと未来を語り合うきっかけとなれば幸いです。これからも、生協らしい協同の力を発揮し、持続可能で安心して暮らせる地域社会の実現に向けて、着実に歩みを進めてまいります。

SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けて。



目標1. 貧困をなくそう

・ユニセフお年玉募金



目標2. 飢餓をゼロに

・レッドカップキャンペーン



目標3. すべての人に健康と福祉を

- ・くらしの助け合い活動
- ・福祉事業の推進
- ・ピンクリボン運動



目標4. 質の高い教育をみんなに

- ・組合員活動(学習会、産地工場見学、商品の試食と普及など)
- ・子育てひろば、子ども研究センターとの取り組み



目標5. ジェンダー平等を実現しよう

・男女共同参画の取り組み



目標6. 安全な水とトイレを世界中に

・コアノンスマイルスクールプロジェクト



目標7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- ・始良市に太陽光発電施設設置
- ・太陽光発電の設置(始良店・出水店・指宿店・宇宿店・かせだ店・かのや店・国分店・川内店・田上店・南谷山店)



目標8. 働きがいも 経済成長も

・65歳まで定年延長



目標9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

- ・産地直結運動の推進
- ・協同組合間提携商品の普及



生協コープかごしま

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

知っていますか?

SDGs

SDGs(エス・ディー・ジーズ Sustainable Development Goalsの略)とは、世界が抱える課題を解決し、ずっと先の未来まで持続可能な社会をつくるために、2015年9月に国連総会で採択された目標のこと。日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。貧困や飢餓、環境やエネルギー、世界平和、教育、人権など、多岐にわたる分野を網羅する17の目標が掲げられており、先進国・発展途上国に関わらず、世界中の人々が協力して取り組むべき課題や行動計画を示したものです。

生協コープかごしまは、持続可能な社会の実現を目指します。

生協コープかごしまは、「よりよき生活（くらし）と平和のために」「ひとりがみんなのために みんながひとりのために」「安心して暮らし続けられる地域社会づくりのために」をスローガンとする、協同と助け合いの組織です。

世界の課題を解決し、よりよい未来を迎えるために、国連が掲げたSDGs（持続可能な開発目標）の「誰も取り残さない」という基本精神は、私たちの理念と大きく重なるものでした。そこで、生協コープかごしまは、組合員活動と事業を通して、SDGsの目標である「持続可能な社会の実現」に取り組んでいくことを表明します。



目標 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

- ・地域における見守り活動に関する協力協定
- ・災害時における食糧等物資の供給協力に関する協定
- ・包括的業務協力協定



目標 16. 平和と公正をすべての人に

- ・平和を守る活動の推進
- ・戦後80年の取り組み



目標 15. 陸の豊かさも守ろう

- ・NPO法人若草会との「里山」活動
- ・FSC 認証商品の普及
- ・レインフォレスト・アライアンス認証商品の普及
- ・産直（産地直結）商品の普及



目標 14. 海の豊かさを守ろう

- ・NPO法人くすの木自然館との「里海」活動
- ・MSC 認証、ASC 認証商品の普及
- ・環境募金



目標 13. 気候変動に具体的な対策を

- ・『2030 温室効果ガス削減計画』の実践
- ・廃食用油を活用したバイオディーゼル燃料の活用



目標 12. つくる責任 つかう責任

- ・エシカル消費の普及
- ・買い物袋持ち寄り運動（レジ袋削減）
- ・リサイクル回収の取り組み
- ・食品ロスの削減



目標 11. 住み続けられるまちづくりを

- ・地域見守り活動
- ・被災地支援活動
- ・くらしの助け合い活動
- ・買い物支援（移動店舗・買い物送迎）



目標 10. 人や国の不平等をなくそう

- ・フェアトレード商品の普及



SDGsの取り組み

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも 経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



生協コープかごしま 2030年ビジョン（長期方針）

つながる力で、豊かな 「地域の食と暮らし」の創造を。

第1の柱

生活者の食と暮らしを守ります

私たちは、この先10年の最優先課題として
事業経営の安定と成長をめざし、
生活者の食と地域の暮らしをしっかりと守ります。

- 事業経営の安定化と成長を図ります。
- 食と健康の取り組みを深化させます。
- 「食の地域内循環」を大切にします。



第2の柱

よりよい組織（生協）をつくります

私たちは、組織の基礎である組合員と職員の
つながりを深め、それぞれがいきいきと
輝ける生協をつくります。

- 組合員誰もが参加しやすい運営のあり方をつくります。
- 職員がやりがいと希望をもてる組織をつくります。
- 事業と組合員活動がつながる仕組みをつくります。
- 地域社会から期待され、感謝される組織をつくります。



第3の柱

“ひらかれた生協”として、地域とつながります

私たちは、「つながる」「ひらかれた」をキーワードに、
生活インフラの一つとして
地域社会になくてはならない存在になります。

- より多くの人と「つながる」生協をつくります。
- 地域社会に「ひらかれた」生協をつくります。
- 自治体とも協力し、持続可能な地域社会づくりに努めます。
- 食・医療福祉・住のつながりを深め、安心できる社会環境をつくります。



第4の柱

「コープSDGs行動宣言」の活動を進めます

国連が採択した「SDGs（持続可能な開発目標）」に基づいて、全国の生協がともに確認した「コープSDGs行動宣言」の活動を推進します。



1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見なおします
目標12（つくる責任つかう責任）



2. 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します
目標11（住み続けられるまちづくりを）



3. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます
目標3（すべての人に健康と福祉を）



4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します
目標16（平和と公正をすべての人に）



5. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します
目標7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）
目標13（気候変動に具体的な対策を）



6. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します。
目標1（貧困をなくそう）



7. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します
目標5（ジェンダー平等を実現しよう）



組合員、職員、地域の皆様と共有し、よりよい社会とくらしの実現を目指します。

2030年ビジョン第1の柱

生活者の食と暮らしを守ること

事業経営の安定化と成長を図ります。食と健康の取り組みを深化させます。
食の地域内循環を大切にします。



生協コープかごしまの 品質への取り組み（2025年度）

- 店舗内加工惣菜・水産の製造環境・製造管理の改善を進める取り組みでは、店舗点検・器具検査。商品検査を38回（19店舗×2回）行いました。
- 取引先工場点検および生協千直センター点検では、生協コープかごしまプライベートブランド（以降PB）商品の製造先19工場を訪れ、製造工程の確認やお申し出への対応状況の様子、製造手順、製造環境改善の取り組みの確認を行いました。
- 3,239検体、14,674項目の微生物モニタリング検査を実施しました。
- 仕様書審査・表示審査ともに221件を手順に沿って行いました。
- 日本生活協同組合連合会をはじめとする全国の生協で、工場点検・商品検査を行っています。

産地や工場見学・商品学習会

生協コープかごしまでは、「産直=産地直結」を基本方針に、生産者と消費者（組合員）が直接つながり、ともに成長していくために、さまざまな学びの場や交流の機会を設けています。組合員が生産者やメーカーを訪問し、こだわって作っている商品について学ぶ「産地交流」、商品のこと、くらしのこと、社会のことなどを学ぶさまざまな「学習会」がコープではおなじみです。2025年度は、産地工場見学到668人が、学習会に1,786人がそれぞれ参加しました。



商品開発を中心にしたいろいろな取り組み

●商品政策委員会

2025年度内で計8回開催しました。商品政策委員会では生協コープかごしまの産直政策への理解を深めながら、水産品の産直について学習や現地訪問、意見交換を行い、水産資源の減少や環境変化が進む中で、持続可能な漁業や資源管理の重要性についても理解を深める機会となりました。また、鹿児島市保健所がベジタブルセンターから収去した「産直にんじん」から基準値を超える残留農薬が検出されたことで、「食の安心・食品の安全」に対する組合員の不安を招く事案が発生したことを受け、商品政策委員会では原因や対策について協議し、透明性をもって適切な情報提供を行うことが組合員の安心感や信頼につながることも再認識しました。商品政策委員会は、生協の産直や商品政策を深く理解し、課題に向き合いながら改善を進める大切な場となっています。



●商品開発委員会

2025年度はおせち、クリスマスケーキ、生協コープかごしまPB商品「C田舎麦みそ」「C生芋こんにゃく」の開発改善委員会を開催しました。おせちについては霧島エリア(始良店)、クリスマスケーキは鹿児島南エリア(宇宿店・西陵店)、C田舎麦みそは南薩エリア(指宿店)、C生芋こんにゃくは鹿児島南エリア(南谷山店)で臨時開催しました。昨年度に引き続き、実出席の参加形式で試食や意見交換を実施し、委員会開催で開発改善に取り組みました。

●協同組合間提携 smile ring 商品

生協コープかごしま、Aコープ鹿児島、JA鹿児島県経済連が共同で開発した「smile ring (スマイルリング) 商品」では2025年度、新たに「鹿児島県産大豆の厚揚げ」と「緑茶ティーバッグ」の供給を開始しました。引き続き、新たな商品開発も進めていきます。



●産直二者認証委員会

農産では2025年度、地元に近い認証委員にお集まりいただき、23産地の認証審査を実施しました。畜産では、組合員との交流を交えて産直豚、産直黒豚、産直牛、産直若鶏と全ての畜種で実施しました。たまごについては、有限会社サンエッグで認証審査を行いました。米は始良(ひのひかり・あきほなみ)、有明(なつほのか)、伊佐(ひのひかり)、北さつま(さつま雪もち)の認証審査を行いました。



●地域との取り組み

2025年度は志布志市観光特産品協会と連携し、店舗(国分店・しぶし店・城西店)と個配・共同購入で志布志市の特産品を取り扱う「志布志フェア」を実施しました。今後も志布志市をはじめ、鹿児島県内のさまざまな地域の特産品を取り扱う企画が実現できるよう、調整を進めていきます。

2030年ビジョン第2の柱

よりよい組織（生協）をつくること

組合員誰もが参加しやすい運営の在り方を作ります。職員がやりがいと希望を持てる組織を作ります。事業と組合員活動が繋がる仕組みを作ります。地域社会から期待され感謝される組織をつくります。



くらしの助け合い

「ひとりがみんなのために、みんながひとりのために」が生協の合言葉。誰もが笑顔で安心して暮らすためには、助け合いの精神が不可欠です。生協コープかごしまには、組合員同士が助け合うための仕組みや活動がたくさんあります。



くらしの助け合いの会

1986年(生協コープかごしま15周年)に始まった「くらしの助け合いの会」は、くらしの中の家事援助を中心に、援助を受けたい組合員と、それをお手伝いしたい組合員とが互いに助け合い、支え合う有償活動です。また誰もが気軽に立ち寄れる「おしゃべりひろば」や「ようこそパーティー」なども各店舗で行っています。



介護予防教室 「よかよかひろば」

地域の方が楽しく交流する場として、2025年度は毎月1回の「よかよか体操」「ぼっちゃ」の運動と「おしゃべりタイム」を5店舗(城西店・西陵店・南谷山店・紫原店・吉野店)で開催し527人の参加がありました。



子育てひろば

赤ちゃんや小さな子ども連れで気軽に参加し、いつ来てもいつ帰っても良い「ノンプログラム」の交流できる場として開催しています。2025年度は20のひろばで、のべ919組、1,899人が参加しました。

「はじめてばこ」の お届け

KTSの「はじめてばこ」プレゼントに協賛しています。「鹿児島に生まれてくれてありがとう」の気持ちを込めて、生協コープかごしまの職員が商品をお届けします。



文化の継承

さつまお笑い劇場

生協コープかごしまの提供で、毎週日曜日の10時～10時30分、MBCラジオで放送している「さつまお笑い劇場」。日常の出来事をユーモラスに鹿児島弁で表現する「さつま狂句」などを中心に、地域の話言葉や文化を継承しています。

文化鑑賞会『まい・夢』

『まい・夢(む)』は、心豊かな暮らしを目指して、組合員が毎月の会費を積み立て、年間3～4回の生の舞台(例会)を観る会員制の文化鑑賞会です。企画・運営などは会員自身で行い、自分たちが楽しみながらよりよい芸術文化の継承を行っています。2025年度は、5月に第77回例会「前進座 松本清張朗読劇」、9月に第78回例会「松本圭史 ジャズコンサート」を開催しました。また、12月の第79回例会「ミュージカル クリスマス・キャロル」は、宝山ホールとの共催企画として開催できました。そして3月には第80回例会「人形浄瑠璃 文楽」を異なる演目で、昼夜2回公演を行いました。



2026年3月例会 人形浄瑠璃 文楽

くらしの見直し

ライフプランアドバイザーの資格を持つ組合員によって、暮らしやお金に関するさまざまな取り組みが行われています。また家計の集計登録の試みが長年続けられ、年間誌を発行しています。

LPA

LPA(ライフプランアドバイザー/生協版ファイナンシャルプランナーのこと)の資格を有する組合員メンバーが、ライフプランや生命保険の見直し、自動車保険、火災保険、年金、税金などの学習会を県内各地で実施しています。2025年度は活動開始から20周年を迎え、18会場で開催、171人が参加しました。また「くらしの見直し講演会」として、外部講師による講演会を毎年開催しています。



第24回くらしの見直し講演会の様子



家計簿からみた私たちの暮らし

家計簿モニター(集計登録者)から届いた毎月の家計データの集計結果を「家計簿からみた私たちの暮らし」として、年に1回発行しています(2025年の調査世帯数は、のべ1,025世帯)。

組合員の声を生かした店舗改装

2025年度はコープ城西店の改装工事を実施し、9月26日にリニューアルオープンしました。城西店の改装に向けては、ご利用いただいている組合員を対象に「Jyosei スマイルロード」と名称を付けた組合員参加型会議を3月から毎月開催しました。その中で、組合員の声を反映するためのアンケートを実施し、収集した意見をお店づくりに生かしました。



2030年ビジョン第3の柱

“ひらかれた生協”として、 地域とつながること

より多くの人と「つながる」生協をつくります。地域社会に「ひらかれた」生協を作ります。
自治体とも協力し、持続可能な地域社会づくりに努めます。
食・医療福祉・住のつながりを深め、安心できる社会環境を作ります。



地域と連携してよりよい社会の実現を目指しています

それぞれの地域の店舗や個配・共同購入のネットワークにおいて、
その地域で暮らす高齢者や子ども、障がいを持つ方など、支援を必要とする方たちの
見守りや自然災害時の地域支援に向けた協定を多くの自治体と結んでいます。

自治体との地域見守り活動の協力協定

生協コープかごしまでは、地域で支援を必要とする方々（高齢者、子ども、障がいを持つ方など）を見守り、
支えていくために、鹿児島県内のいくつかの自治体*や社会福祉協議会と協力協定を結んでいます。

*日置市、薩摩川内市、指宿市、志布志市、曾於市社会福祉協議会、垂水市、霧島市、さつま町、枕崎市、
鹿屋市、出水市、奄美市、錦江町

災害時の物資供給協力の協定

生協コープかごしまは、災害時の食糧などの物資の供給に関する協定を8行政*と締結しています。

*鹿児島市、霧島市、志布志市、日置市、薩摩川内市、南九州市、始良市、曾於市と締結しています。

包括連携協定

南さつま市、志布志市と包括連携協定を結んでいます。
南さつま市では協定に基づき、2025年から「南さつま市
すくすく赤ちゃんおむつ等支給事業」がスタートし、子育て
支援物資のお届けや子育てに関する相談の受け付けなど、
事業には加世田センターの職員も携わっています。また
志布志市とは協定に基づき、月1回、しぶし店で市民を
対象とした健康チェックを無料で実施しています。



お買い物支援

生協コープかごしまでは、買い物に行きたくても行けない、買ったものを持ち帰ることができない、調理をすることが困難など、地域のみなさまの多様化する「食の困りごと」に対して、様々な活動や取り組みを行っています。週に1回、決まった曜日・時間帯にお届けする「個別配達」（お1人でご利用可能。冷蔵・冷凍品は、蓄冷材・ドライアイスと一緒に保冷箱に入れてお届け。配達手数料は週1回、220円。手数料が減額されるサービスがあり）以外にも、以下のような支援を行っています。

移動販売・店舗ふれあい便・地域訪問ふれあい便

生協コープかごしまの移動店舗は薩摩川内市との連携でスタートし、現在薩摩川内市と阿久根市、いちき串木野市の一部としぶし店でも移動店舗を運行しています。また、麦の芽福祉会の移動店舗（鹿児島市とその近隣を運行）を支援しています。店舗ふれあい便は「お買い物代行」と「お買い上げ配達」の形式で、18店舗（鹿児島市内10店舗、市外8店舗）で活動しています。



川内店の1トン移動店舗車

共同購入を活用した取り組み

地域の社会福祉協議会などと協力し、買い物に困っている地域の方々の声に応じてスタートした公民館配達は、薩摩川内市入来朝陽地区や南大隅町佐多辺塚地区の公民館のサロン活動に合わせて行われているほか、2025年度からは東串良町岩弘地区と鹿屋市中心部（かのや中央四心会）でもスタートしました。今後もさまざまな地域で進められるよう、引き続き調整が行われています。共同購入の仕組みを利用した取り組みは入来朝陽に始まり、2025年度からは曾於市大隅町坂元地区の「物産館北マーケット」の商品仕入れ・利用の支援を行っています。



お弁当宅配

管理栄養士監修のもとカロリーや塩分を計算して調理した「体にやさしいお弁当」を日替わりでお届けしています。また、食べやすさで選べる「介護食」や体調に合わせて選べる「健康管理食」もご用意しています。お好みによっては、朝食用のサンドウィッチやカレーなど、飽きないメニュー作りにも取り組んでいます。宅配エリアも鹿児島市・日置市・始良市・霧島市・始良郡・鹿屋市・曾於市・曾於郡・肝属郡・志布志市・垂水市・薩摩川内市・いちき串木野市・薩摩郡・出水市・阿久根市・出水郡・伊佐市・南さつま市と広がりました。

お買い物送迎

コープ西陵店・吉野店（社会福祉法人麦の芽福祉会との共同事業）・かせだ店（NPO法人すだちの会との連携）の3店舗で、週2回、決まった曜日・時間帯にお買い物送迎を実施しています。



離島特販事業

多くの離島を有する鹿児島県。生協コープかごしまでは、離島に住む方々にもコープ商品を利用いただけるよう、鹿児島県内の定期便のある25の有人離島へ、毎週船便で商品をお届けする「離島特販事業」を行っています。



共済事業

共済事業ではベーシックなCO・OP共済《たすけあい》をはじめ、学生さんに特化した《学生総合共済》など契約件数が14万契約を超えました（全国では982万契約）。また2024年9月からスタートした「お誕生前申し込み制度」は全国で4万件を超える契約をいただいています。生まれる前に「お腹の子どもさん」が加入できる画期的な制度は、出産の不安を抱えるお母さんに寄り添う保障として広がりを見せています。

コープフェスタ2025

商品の生産者やメーカーが一堂に会し、商品の試食・販売を行うほか、組合員との交流を目的としているコープフェスタ。2025年度は前年に引き続き地方開催として、11月にコープ国分店で開催し、県内外の生産者やメーカーが多数参加して、販売や試食を通じて消費者と直接交流を行いました。毎年多くの方にご来場いただき、生協コープかごしまを知っていただく大切な機会となっています。これらの取り組みを通じて、産直生産者・メーカー・組合員が互いに理解を深めるだけでなく、地域のみなさまと生協とのつながりもより一層広がっています。



2030年ビジョン第4の柱

「コープSDGs行動宣言」の活動を進めること

核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します。地球温暖化対策を推進し再生可能エネルギーを利用・普及します。世界から飢餓や貧困をなくし子どもたちを支援する活動を推進します。ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します。



募金や被災地への支援活動

2025年度は地震や豪雨など、自然災害による被害が各地で発生しました。生協コープかごしまでは、7月にトカラ列島で発生した群発地震の支援として、トカラ列島地震緊急支援募金を、8月に豪雨被害を受けた始良市の災害ボランティアセンターへの支援物資のお届けを、また11月に大分県で発生した大規模火災の支援として、大分市佐賀関大規模火災支援募金に取り組みました。

生協のユニセフ募金は1979年の国際児童年から始まりました。1984年から毎年1月に実施しているお年玉募金をはじめ、2025年度にはミャンマー地震緊急募金にも取り組み、鹿児島県ユニセフ協会を通じて贈呈しました。これまでに寄せられた募金額は、累計で1億円を超える金額となりました。

平和募金は誰でも参加できる平和の取り組みとして

進められています。寄せられた募金は鹿児島県原爆被爆者協議会への寄付や、生協の平和活動の費用などに活用されています。

環境募金はコープのお店のリサイクルコーナーの維持管理に活用しているほか、始良市で干渴を守る活動を行うNPO法人「くすの木自然館」と、日置市で里山「彩葉楽縁（いろはらくえん）」を所有するNPO法人「若草会」に贈呈を行っています。

募金活動（2025年度実績）

●トカラ列島地震緊急支援募金.....	896,953 円
●大分県大分市佐賀関大規模火災支援募金.....	858,204 円
●ユニセフお年玉募金.....	1,688,367 円
●ミャンマー緊急地震募金.....	1,584,944 円
●平和募金.....	1,574,423 円
●環境募金.....	387,835 円



戦後80年企画

生協コープかごしまが取り組む平和活動。2025年は戦後80年を迎えたことから、組合員が中心となって立ち上がった「戦後80年ピースかごしま2025」実行委員会を中心に、年間を通してさまざまな企画に取り組んできました。

〔第1弾〕 憲法記念日市民のつどい

毎年、5月3日の憲法記念日に開催しています。2025年は伊集院高校演劇部による劇の上演や戦争体験の朗読、またフォトジャーナリストの安田葉津紀さんによる講演が行われました。



〔第2弾〕 わたしの平和大募集

組合員それぞれが考える「平和」について、詩や絵画などを募集しました。多くの作品が集まり、各店で開催された展示会やその後の平和の取り組みでも披露されました。



〔第3弾〕大隅戦跡DVDの作成

大隅半島の各地（鹿屋・曾於・志布志）に残る戦跡。2025年度はそれらを紹介するDVDを作成し、6.17平和のつどいなどで上映されました。当時を知る方へのインタビューや編集など、作成には組合員も携わっています。



〔第4弾〕6.17 平和のつどい

1945年6月17日に、鹿児島市内が大きな被害を受けた鹿児島大空襲。この出来事を風化させないよう、毎年展示や体験者による講演などを開催しています。2025年は多くの方に参加いただけるよう、日曜日にあたる6月15日に開催し、長崎平和の旅や沖縄戦跡・基地めぐりに参加した学生たちによる報告、戦争・被爆を体験された方による講演、また落語家桂竹丸さんによる特攻隊をテーマにした創作落語が披露され、参加者全員で平和について考えました。

〔第5弾〕

平和を願う展示会～お店からお店へ～

鹿児島県内に19店舗あるコープのお店と伊佐地域で、2025年6月から9月にかけて、リレー形式で各店の組合員集会室に、戦争当時の写真や、組合員から寄せられた平和に関する詩・絵画などの展示を行いました。各地でお買い物に来られた組合員が立ち寄り、平和について考える姿がみられました。



〔第6弾〕

夏休み親子平和映画会

夏休みの小中学生を対象に、平和映画の上映会を行いました。7月に鹿児島会場、8月に川内会場の2会場で実施し、映画「マヤの一生」を上映したほか、さまざまなワークショップも開催しました。

〔第7弾〕平和フェス

鹿児島県ユニセフ協会との合同企画で、県内の中高生や団体計6組が出演し、「地球と子どもたちのために何ができるのかを考え、次の世代へ平和のバトンをつなぐこと」をテーマに、ステージ演奏や平和の展示を行いました。



〔最後に〕平和のメッセージ

2025年12月8日(月)に、生協コープかごしま本部と鹿児島市内3店舗で、戦争の悲劇を繰り返さないという願いを込めて「戦後80年ピースかごしま2025」実行委員会による平和のメッセージの読み上げを行いました。(平和のメッセージはP21をご覧ください。)

つくる責任つかう責任の例 プラスチック問題のエシカル

プラスチック包材の環境問題に 対応するには？



つくる側



リデュース

使用量削減
包材を「省く」
(袋内のトレイをなくす)
「小さくする」「薄くする」



co-op
ただの炭酸水
(天然水使用)



リユース

繰り返し使用
洗剤・シャンプーなど、
詰替用規格の配置



co-op
セタENERGY
(エナジー)
抗菌・防臭 詰替用



リサイクル

再資源化・再生
回収ペットボトルなど、
再生資源を原料とする
包材の利用を推進



co-op
ビーフカレー
中辛



バイオマス

植物由来素材利用
植物由来プラスチックの
利用を推進



co-op
リッチブレンド
レギュラー
コーヒー

つかう側

プラスチックと
賢く付き合ひましょう

リデュース

少なくする
ごみを減らす

リユース

再利用する
繰り返し使用する

リサイクル

再生利用する
なるべく捨てない

●廃食用油リサイクルの取り組み

2023年度から始まった廃食用油リサイクルの取り組みは、全店に設置された廃食用油回収BOXに集められた油を、始良市にある自前の精製工場バイオディーゼル燃料(BDF)に精製し、現在は9台の配達トラックの燃料として使用されています。また2026年1月からは、BDFを精製する過程で生まれ、通常は廃棄される「グリセリン」を使用した住居用洗剤「グリボン」の製造を開始。界面活性剤を使わず、アルカリの力で油汚れを浮かすため、環境にやさしい洗剤として、コープのお店各店で取り扱いが始まっています。



●温暖化防止自主計画と省エネ対策

生協コープかごしまでは、「CO2排出量を2030年までに13年度比50%削減」を目標とし、省エネ効果の高いリーチインショーケース(扉を設けた冷凍冷蔵ケース)やLED照明への切り替えなどを積極的に進めています。太陽光発電施設は始良発電所をはじめ始良店・出水店・指宿店・宇宿店・かせだ店・かのや店・国分店・川内店・田上店・南谷山店と増えており、引き続き「再生可能エネルギー」への転換を進めていきます。

●ペットボトル回収機

ペットボトル回収機は、現在鹿児島市内の9店舗(荒田店・宇宿店・城西店・西陵店・田上店・谷山店・南谷山店・紫原店・吉野店)と出水店・かのや店・国分店・しぶし店・川内店の計14店舗で運用しています。キャップとラベルを取り、洗って乾燥させた使用済みのペットボトルを回収機の中に入れると、本来の容積の1/3まで圧縮するだけでなく、ユニセフ募金・環境募金・離島特販運賃基金の中から希望する募金先へ寄付することができます。

また回収・圧縮されたペットボトルはエコトレイへ再生され、コープのお店で一部商品のトレイとして活用されているほか、原油から新たなトレイを作る場合に比べ、CO2排出量を約30%削減できます。



●包装容器等のリサイクルの推進

生協コープかごしまでは、組合員とともに様々なりサイクル活動を行なっています。
店舗にリサイクルコーナーを設け、包装容器や廃食油等を回収。また、共同購入や個配利用の場合は、配達職員がカタログや包装材を回収しています。集められた資源は、リサイクルして再活用されます。

（リサイクル量の推移）

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
廃食油 : kl	63	70	69	66.2	63.6	59.1	50.8	50.6	57.7	68.2
ペットボトル : t	90	92	143	100.7	27.6	27.1	23.5	22.1	20.8	23.1
アルミ缶 : t	42	41	43	82	78.7	75.7	69.6	60.6	52.5	45.3
牛乳パック : t	40	31	33	33.5	35.2	38.8	37.7	35.8	35.3	34.4
発泡トレイ : t	29	29	30	22.8	18.7	19.4	23.2	23.9	21.8	21.7
たまごパック : t	3	3	4	18	17.7	17.7	18.5	19.7	18.7	17.1
集品袋 : t	24	23	21	21.6	25.2	25.2	23.7	24.0	23.5	22.6
カタログ : 10t	131	130	134	145.1	139.7	141.5	144.3	141.2	115.7	129.2

ペットボトルのリサイクルは2019年10月1日より行政による資源ごみ回収を組合員に呼び掛け、鹿児島市内店舗のみ実施になりました。

●ろすのんポイント～食品ロスを減らす新しい取り組み

コープのお店では、主に消費期限管理のため、商品ごとに基準を設け、期限が迫っている商品に「値引きシール」を貼り「まだ美味しく利用できる」「早めに召し上がるならこちらを選んでほしい」の気持ちを込めてご案内しています。そのことが廃棄による食品ロスをなくすことにつながります。生協コープかごしまでは、2020年6月から、この「値引きシール」が貼ってある商品をご購入いただくと「ろすのんポイント」を付与しています（1日に1回・組合員カード提示の方のみ）。この「ろすのんポイント」を含む各ポイントが40ポイントたまると、レジで100円の値引きができる「コープの満点券」を発行しています。



▲コープのお店で値引きシールの商品を購入されると「ろすのんポイント」が付いてきます。



生協コープかごしまは、5省庁（消費者庁・文部科学省・農林水産省・経済産業省・環境省）が推進する「食品ロス削減国民運動」に協力しています。「ろすのん」はそのロゴマークです。



●「てまえどり」運動

生協コープかごしまでは、現在「てまえどり」運動を推進中です。小売店舗が消費者に対して、商品棚の手前にある商品を選ぶ行動を呼びかける取り組みです。食品産業から発生する食品ロス削減のためには、食品事業者（ここでは生協コープかごしま）の取り組みだけでなく、消費者（ここでは組合員）に食品ロス削減へのご理解、ご協力をいただくことが欠かせません。日頃のお買い物の中で、購入してすぐに食べる場合には商品棚の手前にある商品など、販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ「てまえどり」をおすすめすることで、販売期限が過ぎて廃棄されることによる食品ロスの削減が期待できます。

●マイバッグ（買い物袋）持ち寄り運動の更なる推進 CO₂削減

レジ袋は石油を原料に使う上、製造時やゴミとして処理する時にCO₂を排出します。
そこで生協では、買い物の際にマイバッグを持参してもらう「マイバッグ運動」を推進しています。

※2020年6月5日からレジ袋有料化をスタートしました。2020年度は持参率が26%引き上がり、約470万枚のレジ袋の使用を減らすことができました。これはCO₂を286.7kg減らしたことになります。2025年度の持参率は前年より0.4%増加しました。



（レジ袋使用枚数、買物袋持参率の推移）

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
枚数（万枚）	876	873	873	718	247.1	152	162	167	168	168
持参率（％）	50	49.8	51.7	59.3	85.4	84.9	84.1	83.9	83.7	84.1

ピンクリボン運動

9月～10月のピンクリボン月間に合わせ、コープ化粧品の売上から寄付を行いました。全国の生協では、認定NPO法人J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）の「ピンクリボン運動」に賛同し、期間中のすべてのコープ商品の売上から1品につき1円を寄付しています。2025年度の募金総額は1,005,472円となりました。キャンペーンを通して、J.POSHの推進する啓発や助成などの種々のプログラムを応援していきます。

コープの洗剤環境寄付キャンペーン

日本生協連は、2018年からWWFジャパンを通じ、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農家を支援しています。2024年度の全国での生協の寄付金総額は2,718,203円となりました。今後はこの支援活動を、インドネシアの他の地域へ広げていくことをめざしています。



©WWFジャパン



商品の一例



セフター
ENERGY（エナジー）
抗菌・防臭

2026年度キャンペーン期間
2026年5月21日～2027年5月20日(通年)

取り組み 内容

- 1 対象商品1品をお買い求めください。
- 2 1品につき0.5円をWWFジャパンに寄付します。
- 3 持続可能なパーム油の生産などを支援する活動につながります。

10月～11月はCO・OP×レッドカップキャンペーン



©WFP/Myanmar

飢餓に苦しむ子どもたちに、 学校給食を届ける活動。

全国の生協は、国連WFP（世界食糧計画）協会を通じて、飢餓に苦しむ子どもたちに学校給食を届ける活動を行っています。2020年度からミャンマー連邦共和国での支援が始まっており、キャンペーン期間中、対象商品1品につき1円を寄付し、2025年度は全国の生協での寄付金総額が3,480,113円となりました。



〈対象商品〉
コープヌードルなど
15品目



地球の飢餓を救え。
WFP
国連世界食糧計画



2010年11月よりスタートした取り組みです。

「CO・OPコアノンロール」シリーズを1パックご購入いただくごとに1円がユニセフを通じてアフリカのアンゴラ共和国に寄付されます。

コアノンロールでアンゴラ共和国の子どもたちに学校を。

コープのトイレットペーパー「コアノンロール」。1パックのご購入につき、1円がユニセフに寄付され、アフリカのアンゴラ共和国で「子どもたちにやさしい学校づくり」をする活動として、教師の育成や安全な水の整備、トイレの設置などに使われています。2025年度は全国の生協で17,173,080円の寄付を行いました。

第16期キャンペーン期間
2025年11月1日～2026年10月31日(通年)

アンゴラの 子どもの状況

- 5歳未満児の死亡率：出生1,000人あたり69人
- 慢性的な栄養不良に苦しんでいる5歳未満の割合：38%
- 教育を受けていない子どもの割合：5人に1人

1期からの
寄付金総額は
1億5,000万円を
超えました。

対象商品
の一例



やわらかワンタッチ
コアノンシングル



やわらか
コアノンロールシングル



子どもたちが楽しく学べる環境づくり



教師の育成



安全な水の整備

※P20の全国の動きについては、日本生協連発行「コープのエシカル2026」より引用しました。

【平和を願うメッセージ】

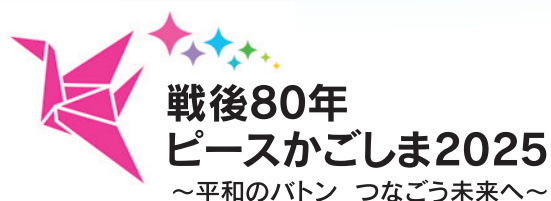
私たちはふだんの何気ないくらしの中にこそ、
平和の価値が宿っていると思っています。

それは、
毎日、ごはんを食べられること
安心して眠れること
明日に向けて希望を持てること
みんなの意見が尊重されること
みんなが思いやりを持つこと……

戦争を起こすのは人間ですが、平和をつくれるのも人間なのです。
暴力と憎しみではなく、対話と理解、協力と共感を大事に
平和な世界を築いていかなければなりません。
この地球に生きる全ての人々が安心と希望を分かち合える
平和を目指し育みながら、未来へつないでいきましょう。
私たちにできることは世の中の出来事に関心を持ち、
一人ひとりが自分のこととして考え、目を向けていくことです。

平和への想いを大きな力に変えて、
戦争も核兵器もない世界を
一緒に実現していきましょう。
心をひとつにして、
平和のバトンを未来へつなぎましょう。

戦後80年ピースかごしま2025 実行委員会



「より良い生活を実現するために、お互いに助け合い、声や力を寄せ合う組合員による協同の組織」が生協（生活協同組合）です。

生協コープかごしまは「よりよい生活（くらし）と平和のために」「ひとりがみんなのために みんながひとりのために」をスローガンに、1971年に鹿児島市民生活協同組合（鹿児島市民生協）として誕生した、鹿児島の消費者一人ひとりが手をつなぎあい、自分たちの願いを実現するために作っている自発的な「協同」「助け合い」の組織です。

願いを実現するために、組合員自身がさまざまな取り組みをすすめる組織（集まり）を作り、またより多くの人が参加する取り組み・イベントを組合員自身の活動として準備し、実行しています。

組織概要（事業所等）

※数値は2025年度末のものです。

正 式 名 称	生活協同組合コープかごしま
設 立	1971年4月1日
供 給 高	353億7,366万円
出 資 金	119億4,116万円
組 合 員 数	35万1,315名
職 員 数(約)	一般職員378人、専任フル職員98人、定時・アルバイト職員1,828人
理 事 長	上城 秀人
事 業 所	●本部：鹿児島市（鹿児島市広木一丁目1番1号） ●共同購入事業所：8センター（鹿児島市2センター、南さつま市、指宿市、鹿屋市、薩摩川内市、姶良市、伊佐市）と4事務所（曾於市、阿久根市、西之表市、奄美市） ●店舗事業：19店（鹿児島市10店、薩摩川内市、指宿市、鹿屋市、南さつま市、志布志市、霧島市、姶良市、出水市、日置市） ●福祉事業：県内3か所（鹿児島市、薩摩川内市、鹿屋市） ●後方施設：産直センター（鹿児島市）、商品検査センター（鹿児島市）

事業内容

1. コープ商品と産直品の予約注文配達の「共同購入事業」
2. 組合員個人のお宅に直接商品を配達する「個別配達事業」
3. 生鮮食品やコープ商品を中心に毎日の食卓の材料を提供する「店舗事業」
4. 「小さな掛け金で大きな保障」お互いさまの気持ちで
組合員の立場に立って保障する「共済事業」
5. 「助け合い」の心を大切に介護支援やヘルパー派遣を実施の「福祉事業」
6. 住宅リフォーム、車検、冠婚葬祭等の斡旋、生活全般をお手伝いする「利用事業」
および「100円ショップ ザ・ダイソー」ならびに「各種保険」取り扱い
（※関連会社（株）コープサービスにおいて展開）

市町村別組織状況

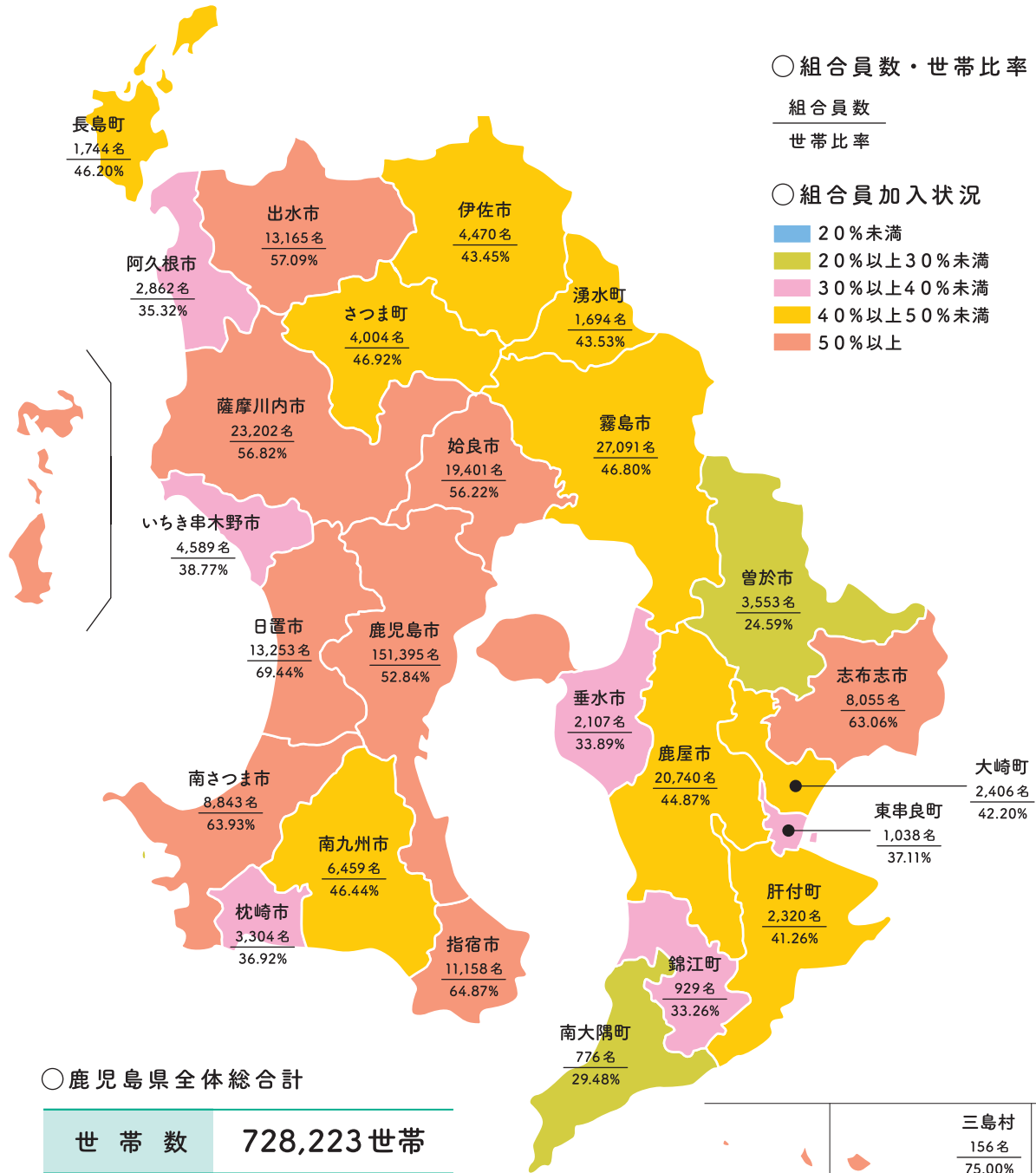
※数値は2025年度末のものです。

○組合員数・世帯比率

組合員数
世帯比率

○組合員加入状況

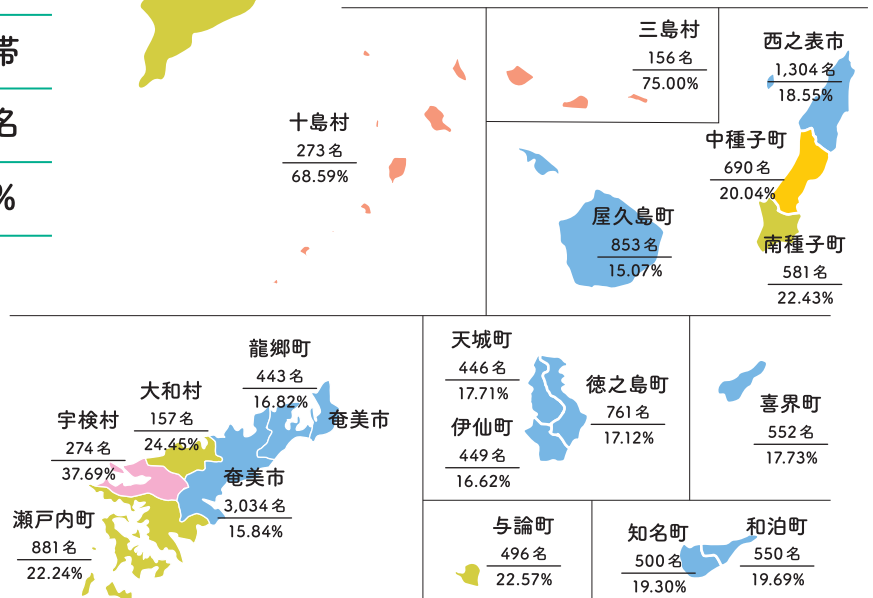
20%未満
20%以上30%未満
30%以上40%未満
40%以上50%未満
50%以上



○鹿児島県全体総合計

世帯数	728,223世帯
組合員数	351,760名
世帯比率	48.24%

※世帯数は2026年3月1日現在の県統計数値です。



協同組合のアイデンティティに関するICA声明

定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

原則

協同組合原則は、協同組合がその価値を実践に移すための指針である。

【第1原則】自発的で開かれた組合員制

協同組合は、自発的な組織である。協同組合は、性別による、あるいは社会的・人種的・政治的・宗教的な差別を行わない。協同組合は、そのサービスを利用することができ、組合員としての責任を受け入れる意思のある全ての人々に対して開かれている。

【第2原則】組合員による民主的管理

協同組合は、その組合員により管理される民主的な組織である。組合員はその政策決定、意思決定に積極的に参加する。選出された代表として活動する男女は、組合員に責任を負う。単位協同組合では、組合員は（一人一票という）平等の議決権をもっている。他の段階の協同組合も、民主的方法によって組織される。

【第3原則】組合員の経済的参加

組合員は、協同組合の資本に公平に拠出し、それを民主的に管理する。その資本の少なくとも一部は通常協同組合の共同の財産とする。組合員は、組合員として払い込んだ出資金に対して、配当がある場合でも通常制限された率で受け取る。組合員は、剰余金を次の目的の何れか、または全てのために配布する。

- 準備金を積み立てることにより、協同組合の発展のため、その準備金の少なくとも一部は分割不可能なものとする
- 協同組合の利用高に応じた組合員への還元のため
- 組合員の承認により他の活動を支援するため

【第4原則】自治と自立

協同組合は、組合員が管理する自治的な自助組織である。協同組合は、政府を含む他の組織と取り決めを行ったり、外部から資本を調達する際には、組合員による民主的管理を保証し、協同組合の自主性を保持する条件において行う。

【第5原則】教育、訓練および広報

協同組合は、組合員、選出された代表、マネジャー、職員がその発展に効果的に貢献できるように、教育訓練を実施する。協同組合は、一般の人々、特に若い人々や Opiniオンリーダーに、協同組合運動の特質と利点について知らせる。

【第6原則】協同組合間協同

協同組合は、ローカル、ナショナル、リージョナル、インターナショナルな組織を通じて協同することにより、組合員に最も効果的にサービスを提供し、協同組合運動を強化する。

【第7原則】コミュニティへの関与

協同組合は、組合員によって承認された政策を通じて、コミュニティの持続可能な発展のために活動する。

協同組合のアイデンティティに関するICA声明とは、国際協同組合同盟(ICA)が1995年のマンチェスター総会で決めた、21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す新しい協同組合の定義、価値、原則です。